

令和3年度 第2回さいたま市民大学運営委員会 議事録

1 開催日時

令和3年11月15日（月） 午前10時00分から午前11時30分まで

2 開催場所

桜木公民館 6階 レクリエーションホール

3 出席者

〈委員：9名〉

- ① 神保 富美子 委員長
- ② 安藤 陽 副委員長
- ③ 飯塚 真澄 委員
- ④ 井上 直也 委員
- ⑤ 岩井 寛和 委員
- ⑥ 寺田 道子 委員
- ⑦ 難波 陽子 委員
- ⑧ 林 勇 委員
- ⑨ 平田 利雄 委員

〈事務局：12名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 吉田 治士
- ② 参事兼副館長 中村 和哉
- ③ 参与 野崎 隆史
- ④ 主幹兼事業・企画係長 有江 良修
- ⑤ 事業・企画係主任 曾根 啓佑
- ⑥ 事業・企画係主任 三井 響子
- ⑦ 社会教育指導員 渡邊 京子
- ⑧ 社会教育指導員 永井 紀美子
- ⑨ 青少年宇宙科学館 松本 真治
- ⑩ 博物館 矢野 慧太
- ⑪ うらわ美術館 松原 知子
- ⑫ 大宮西部図書館 中杉 紘子

4 欠席者名

〈委員：2名〉

- ① 青木 光美 委員
- ② 桑原 静 委員

5 報告事項

(1) 前回の議事録について

6 協議事項

(1) 令和4年度さいたま市民大学各コース（案）について

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 協議内容

事務局より、さいたま市民大学教養Ⅰ・Ⅱ、ビジネススキル、暮らしとお金の各コースについて説明をした。

【教養Ⅰ・Ⅱについて】

神保委員長	今回、教養Ⅰでは「気象」、教養Ⅱでは「ノーベル賞」と、教養の中でも専門性が高い内容となっており、従来の教養コースとは異なる内容となっている。この変化については、井上委員からの「科学分野をテーマとしてはどうか」という意見に応えるものでもあり、教養Ⅰがさいたま市にクローズアップした内容、教養Ⅱが広い範囲での興味関心に関する内容、としっかり区別されている点が評価できる。
岩井委員	Ⅰコースの「防災」について、各地で災害が発生した際に市民ボランティアが被災地で活動する様子をよく目にすることから、ボランティアの活動や受け入れ体制に関する内容を盛り込むとより良い。
事務局	防災アドバイザーの活用なども検討しながら、企画を進めていきたい。
平田委員	防災関係で言うと、さいたま新都心の関東地方整備局に防災センターがある。座学形式の講座であると思うが、防災センターなどの防災拠点を見学し、様々な情報を受講者が得ることができると、より一層興味がわくと思う。
事務局	見学条件などもあると思われるので、内容を確認する。
井上委員	Ⅱコースについては事務局より個別に相談を受けている。事業の開催時期は事務局の説明のとおり、ノーベル賞の発表に合わせて11月、12月でいいと思う。講師はまだ決定していないが、市内大学教員と調整中であり、年内には固められると思う。 受講生が集まるよう、広報時に難しい言葉を使わない、日本人受賞者に関わる内容とするなど、身近に感じられる工夫をするとよい。 さらに、事務局の説明では、平和賞や文学賞が文学コースと類似するため理系分野に絞ったとのことだったが、内容的に妥当である。

安藤副委員長	IIコースの演題は「ノーベル賞級の発見が導く我々の未来」にした方が良い。
寺田委員	IIコースの企画案を見ると内容が難しそうだと感じてしまう。理系分野が苦手な人も多いので、例えばノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイ氏など、注目を集められる内容であれば、女性をはじめ多くの参加者が集まるのではないかと。
難波委員	理系分野を得意とする人もいるため、テーマそのものに問題はないと思う。ただ、やはり言葉が硬いため、市民が関心を持てるような紹介や広報をした方がよい。
飯塚委員	科学分野やノーベル賞などをテーマとして扱った際、小中学生の子供がいる子育て世代は、子どもの受験の関係もあり注目することが多い。私自身、内容が難しくなれば、子どもと一緒に受講してみたいと感じた。
事務局	さいたま市民大学は「高度で専門的な講座」と謳ってはいるが、あくまで生涯学習事業であり、極端に難しい内容にしようとは考えていない。ノーベル賞の分野については、できれば事務局案のままとし、内容や難易度については講師が決まり次第相談していきたい。

【ビジネススキルについて】

岩井委員	今年度は前期後期に1コースずつ実施しているが、来年度は分けることなく1コースで実施するという案なのか。
事務局	おっしゃるとおりである。
神保委員長	全4～8回となっているが、今後講師と調整しながら柔軟に決定していくということでよろしいか。
事務局	おっしゃるとおりである。
飯塚委員	対面形式での講座を想定しているのか。動画による配信やオンラインによる実施などは想定していないのか。
事務局	来年度の実施については、コロナ禍がある程度沈静化していることを前提に、対面形式で行うことを想定している。動画配信やオンライン講座については、今年度の実施内容を踏まえて検討する。
安藤副委員長	全4～8回となっているが、どれくらいの期間で実施する予定か。90分間の講座を長期間受講するとなると大変なので、参加率が低くなってしまう恐れがある。
事務局	参加率が低下しないよう、講座回数を5～6回程度にまとめられないか検討する。
平田委員	連続講座の場合、途中1回でも欠席してしまうと話についていけなくなる、といった事情で参加率が低下することが多いので、講義内容をフォローできるようにしておくが良い。

【暮らしとお金について】

寺田委員	若年層をメインターゲットとするとのことだったが、実際に興味を持つのは高齢者や社会人の方が多いのではないかと。
事務局	このコースは令和2年度も実施しているが、その際は対象の幅が広く、高齢者の受講も多かった。今回の案では成人年齢の引き下げなどの社会的な情勢も踏まえて、若年層を主な対象と設定した。
神保委員長	お金を通して日本社会や日本の将来を若年層に考えさせる視点で講義していただける講師であるため、さいたま市民大学の若年層を取り込みたいという方針にマッチしていると思う。
難波委員	開催時期を見る限り、学生をターゲットとしていることがわかるが、コース名や演題が学生には響かないと思う。それでは意図している方々は受講しないと思う。例えば、演題を学生が興味を持てるようなものに変更するなどの方が良い。
平田委員	難波委員と同意見である。例えば、「学校卒業後のお金のプラン」「経済とお金」など、そういった演題の方が興味を持ってくれるように思う。

【その他・全体について】

林委員	全体的な話になるが、講座のテーマに使われている言葉が非常に硬いため、若者や女性に響かない恐れがある。もっと柔らかい言葉の方が、女性の目も引くことができると思う。
神保委員長	教養コースについては、やはり従来の内容と異なっている点が良い。受講者層が大きく変わりそうで、チャレンジ精神を感じる。

青少年宇宙科学館、大宮西部図書館、博物館、うらわ美術館より、科学、文学Ⅰ、文学Ⅱ、歴史、美術の各コースについて説明をした。

岩井委員	科学コースについて、保護者同伴で行うのか。
青少年宇宙科学館職員	資料作成の段階では保護者同伴で考えていたが、その後講師と調整した結果、保護者同伴にしない方向で企画を進めていきたいと考えている。
寺田委員	コースによってはオンラインでの実施や会場の変更も検討しているとのことだったが、資料1に記載されている会場は決定ではないのか。
事務局	資料を事前送付した段階で、実施施設と会場を同一に記載してしまった。実際に講座を実施する会場は検討中であり、変更もありうる。
林委員	文学コースの内容について、「講師の方の意向により決定」する旨、資料に記載があるが、それによっては講義の演題や概要自体が変更になる可能性があるということか。
大宮西部図書館職員	講師については、それぞれの分野に詳しい方を選定する予定であるため、詳細が変更になる可能性はあるが、概要は変更しない予定である。

事務局より、さいたまの魅力Ⅰ・Ⅱ、市民企画、さいたまの食、まちづくり、パソコンの各コースについて説明をした。

【さいたまの魅力Ⅰ・Ⅱについて】

平田委員	Iコースについて、漫画会館をはじめとした漫画についても内容に含まれているとより良いと感じた。
岩井委員	解説付きで施設見学をするという内容は非常に良いが、それぞれの施設がなぜさいたま市にあるのか、盆栽や人形等によって市がどれだけ発展してきたのかなど、背景や歴史に関する講義があると良い。
飯塚委員	実施時期がそれぞれ未定であるとのことだが、子どもを持つ身としては、夏休み期間に実施していただけるとありがたい。また、人形博物館において実施している体験事業なども内容に盛り込めると良い。
林委員	大宮総合車両センターも、鉄道という分野においてさいたま市を代表する施設の一つであるため、可能であれば内容に盛り込めると良い。
博物館職員	博物館では毎年車両センターの施設見学を実施していた。昨年度から新型コロナウイルスの影響により、相手方から断られている状況だが、相談するのであれば協力する。

【さいたまの食・まちづくりについて】

平田委員	さいたま市ではヨーロッパ野菜だけでなく、それ以前からある岩槻ネギやさいたま発祥のトマトなど、幅を広げた内容にしてはどうか。
難波委員	講師はヨーロッパ野菜を取扱う料理店の方に務めていただくのか。もしそのような方々に講師を務めていただくのであれば、その講師のお店にポスターやチラシを置いていただき、講座のPRをしてもらうことは可能か。
事務局	現在、ヨーロッパ野菜研究会や関連するレストランの方を講師として想定している。その一つである「ヨロ研カフェ」(にぎわい交流館いわつき内)からは、講座自体をお店で行うことは難しいと聞いているが、PRへの協力について改めて相談を試みようと思う。 また、調理実演を含む関係上、受講の定員を増やすのは難しいので、第1回として基調講演を行い、その中で講座をPRする方法も可能だと考えている。 基調講演の際は、定員を増員することも検討している。
神保委員長	まちづくりコースの「移動貧困社会」という言葉のインパクトが強すぎるため、副題等で和らげた方がいいのではないか。
事務局	講師として想定している方の著書がまさにこのタイトルであり、講座内容もこの著書に関連するため、演題に用いた次第である。
寺田委員	私も演題が気になった。インパクトが強すぎるため、もう少しやさしいワードに変更した方が良いのではないか。また、この演題からイメージする内容と実際の内容が少し違うような気がする。

神保委員長	さいたまの食コースやまちづくりコースについては副題を設けることで講座の印象が変わるように思う。
-------	---

11 その他

令和3年度さいたま市民大学の実施経過について事務局より報告を行った。

12 閉会